

		意 見 等	見 解
1		7ページに加えたい内容 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和4年法律第五十二号） 第八条 3 市町村（特別区も含む。以下同じ。）は、基本方針に即し、かつ、都道府県基本計画を勘案して、当該市町村における困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する基本的な計画（以下この条において「市町村基本計画」という。）を定めるよう努めなければならない。 （東京都基本基本計画策定：R6年度～10年度） （理由）瑞穂町は、都内1万世帯以上の区市町村の中で、ひとり親世帯の比率が2番目に高い。（R2年国勢調査による。21ページ参照）ひとり親世帯の中で女性が抱える課題は多様であり、地域特性から保健福祉計画の中に加えておいた方がよいと考えました。	7ページに困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に係る記述を追加しました。
2		・超高齢化社会では、高齢者が主体になって社会参加や共生社会につながる取組を広げていく必要があると考えます。地域に住む高齢者が中心となり出来ることは何かをみんなで考え、手作りで気軽に集まる事が出来る場を作っていく。近くに人と話すことが出来る楽しい場所があると、孤立防止やフレイル予防につながると思います。 ・様々なサークル活動から仲間を増やし、ともに暮らす地域への愛着を高めて、一緒に何かをやろうというグループが生まれることから動きが出来るのかもしれませんが。（自分も高齢者に近いので、そんな形で地域デビューできれば自然に何かできそうな気がします）	頂いたご意見も参考にしながら、「第5章 施策の展開」での各取組を作成しました。
3		108ページ 計画の基本目標 2 地域福祉をすすめるための体制づくり 重層的支援体制整備事業の理念を具体的に進めていくために、分科会の中で出た意見なども生かしていくとよいのではないのでしょうか。「町民からの相談対応を丁寧に行うこと」と「体制整備のために関係者同士の打合せの機会を増やすこと」は具体的に日々の業務で意識して対応出来ることなので、きちんと文章化しておくことが大事かと思えます。 （例）「相談しやすい窓口」と「寄り添った支援」を丁寧に行い、把握した課題は関係者や町民と共有し、それぞれの役割や出来ることを一緒に考える機会を作ります。若い世代も含め多様な町民の皆さまと協力して、地域福祉をすすめていく体制づくりに努めます。	123ページ、基本目標2基本施策（4）取組①「相談体制の充実」・取組②「関係機関との連携強化・包括的な支援体制の検討」に反映しました。
4		109ページ 計画の基本目標 4 いきいきと暮らすための健康づくり メンタル面の対策が少ない印象を受けます。「こころの健康づくり」の視点を加えてはどうでしょうか。 （例）一人ひとりがその人らしくいきいきと暮らすために、身体の健康とともに「こころの健康づくり」に取り組めます。 また、普及啓発だけでなく、「行動を促す仕組み作り」も文中に入ると実践につながる感じがします。	109ページ基本目標4「いきいきと暮らすための健康づくり」の記述について、健康日本21（第三次）を踏まえた取組を進めていくこと記載しています。 136ページ（基本施策（2）健康増進の充実の取組では、「休養・心の健康づくり」を掲げており、今後の5年間の方向性において、地域保健福祉計画の関連（下位）計画である「いのち支える瑞穂町自殺予防行動計画」に掲げる施策を推進することとしています。 また、138ページ生活習慣の改善に向けたライフステージ別の取組として、「休養・心の健康づくり」について記載しています。
5		140ページ （アンケート調査結果書63ページより）睡眠による休養が「あまりとれていない」が23.3%、「とれていない」が3.6%と合わせて約3割となっています。こころの健康づくりのために必要な休養も大事かと考えます。→(2)健康増進の充実の所に、評価指標として睡眠による休養を加える。	140ページ基本目標4の評価指標（2）健康増進の充実の中に「睡眠で休養がとれている者の割合」を追加しました。
6		146ページ （アンケート調査結果報告書55ページより）アンケートで孤独感を感じる人が全体で「時々ある」が35.4%、「常にある」が5.6%と合わせて4割以上となっています。これも加えるとよいのではないかと。 →これに関連して可能であれば、アンケート集計で問26（孤独・孤立の状況）と問52（悩みやストレスの相談）のクロス集計が出来ると何かが見えるかもしれないと思いました。	UCLA孤独感尺度の結果を評価指標に活用することについては、他の指標と比べて少し分かりにくいと考え、評価指標への記載は見送りました。 ただ、孤独感に係る評価については、重要な指標の一つであるため、次期アンケートの結果を注視したいと考えています。

7	（評価指標関係） ・評価指標でかかげる各指標について、5年後のアンケートに限らず、簡易的でも毎年度アンケートで把握できるとよいと思います。 既存のフォーム（google formなど）を利用して簡易的なアンケートを実施しやすい環境になっていると思います。 ・簡易的にでも把握できれば、評価指標で掲げた各指標の状況が見える化できるため、当該年度の取組の振り返りと次年度の取組を検討しやすくなると思います。 ・評価指標については、関係する施策（第5章記載）を参考に記載すると、取組と成果の関係性がより明確になるとよいと思います。	毎年度アンケート調査を実施することについては、アンケート手法等が異なることから、5年に一度実施するアンケート調査との比較に課題があると考えています。 例えば、各担当において実施する講演会などの参加者アンケートの質問で「初めて参加した」などの項目を設けることで、取組の振り返り等ができるよう、担当へ働き掛けたいと考えています。 評価指標（145ページ以降）のページに、関連する取組が計画書のどこに記載されているかの記述を追加しました。
8	（瑞穂町の現状） ・ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者のみ世帯が増加する推計（22ページ）が提示されています。 また、民生委員・児童委員の相談件数（24ページ）が相談区分別に示されておりますが、ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者のみ世帯からの相談状況を抽出して示せると、今後の高齢化における住民の困りごとの傾向が見て取れるのではないかと思います。当該、相談傾向に対して、第5章で対応策が示せるとよいと思います。	24ページの民生委員・児童委員の相談件数については、全国統一の様式に基づき報告されたものを集計したデータとなり、相談者の世代や属性などは分からない形となっています。